

# 行政自治会だより

第11号

■発行所／古河市行政自治会

事務局 TEL 0280-92-3113

■発行人／会長 五月女 光男

## 「功労感謝の会」が各地で開催されています



みなさんと故郷を詠いました。  
(女沼行政区)



歌謡舞踊ショー  
(下三自治会)



北野みのる一座による歌謡ショー  
(第20地区)

## 正副地区長会議報告



第3回 正副地区長会議（7月24日）

7月24日に第3回、9月4日に第4回の正副地区長会議が開催されました。主な協議内容について次のとおり報告いたします。

- 自治会長・行政区長視察研修について  
日 時 平成26年11月7日(金)、8日(土)  
研修先 宮城県仙台市宮城野区福住町内会及び近隣沿岸部  
研修内容 講演及び近隣沿岸部の被災地視察
- 議員定数削減に関する要望書を行政自治会として提出することで議決しましたが、9月5日、議員提出議案として古河市議会（9月議会）に『古河市議会議員の定数を定める条例』の改正案が提出され、議員数「28名」を「24名」に改めることで可決されました。これにより、正副地区長会議の審議結果と同様の議員数削減がなされたため、要望書は提出されないことになりました。

## 渡良瀬クリーン作戦を実施しました

漆黒の闇を焦し大空を彩る大輪の華は、今も昔も夏の風物詩、今年の花火大会も55万人の人出で賑わいました。それだけに翌朝緑の堤防に咲く華の光景はすざましいものがあります。行政自治会を始め各種団体2,500人のボランティアの手を借りてのローラー作戦、けっして綺麗とは言い難いこの華を摘み取る姿には頭が下りました。このローラークリーン作戦もまた古河の夏の風物詩、地域の力です。（長谷町自治会 会長 鈴木昇）



クリーン作戦の成果

## 第5回行政自治会親善バレーボール大会開催される

平成26年度第5回行政自治会親善バレーボール大会が、8月24日（日）に開催されました。56行政自治会、86チーム（9人制男子の部18チーム、女子の部18チーム、男女混合の部6チーム、4人制ソフトフリーの部29チーム、ソフトシルバーの部15チーム）老若男女が一堂に会し熱戦が展開されました。会場はサーブ・レシーブ・パス・アタックに応援席からの歓声に包まれていました。ご尽力されたスポーツ推進員及び役員の方もお疲れ様でした。



白熱のプレー

結果は次のとおりです。

（広報委員 知久文雄）

### 第5回行政自治会親善バレーボール大会 結果

部 門	ブロック	優秀賞
9人制 男子の部	A	上大野行政区
	B	葛生行政区
	C	小堤行政区
9人制 女子の部	A	女沼行政区
	B	上大野行政区
	C	仁連御辺行政区
9人制 男女混合の部	A	雷電二丁目自治会
4人制 ソフトバレーボール フリーの部	A	諸川上町・諸川中央町行政区（合同参加）
	B	駒込行政区
	C	八幡町行政区
	D	けやき平自治会
4人制 ソフトバレーボール シルバーの部	A	小堤グリーンタウン
	B	上大野行政区A



## 地区紹介（第9回） ～第17地区～

第17地区は、平成17年9月の新生古河市発足後、大和田小学校地区による4行政区で平成20年4月にスタートいたしました。

当地区は、4行政区（下片田、大和田上、大和田下、新和田）で構成されており、地区面積5.03平方キロメートルに585世帯、約1,600人が加入しております。

地区の中心に大和田小学校があり、北側の下片田地区に国道125号線、南側の新和田地区に筑西幹線道路が東西に走り、西側には国道新4号線（新4号バイパス）が南北に走っております。平成25年7月には国道新4号線沿いに道の駅「まくらがの里こが」がオープンしてたいへん賑わっています。



初期消火訓練（大和田小学校 校庭）

当地区の活動状況ですが、地域のコミュニティ団体大和田学区ふれあいの会と協力して、夏祭り（ふれあい祭り）、国道新4号線沿いのごみ拾い（クリーン作戦）、防災訓練、功労感謝の会（敬老の集い）、研修視察（東京の防災センターにて研修）等を行って地域の交流をはかっております。

地域活動事業では、茨城県指定無形民俗文化財「磐戸神楽保存会」、神輿会、お囃子会、老人会、母の会、子供会及び各行政区に自警団がありそれぞれに活動しています。

当地区の活動の中でも、防災訓練は4行政区一丸となって毎年行っており、今年で18回目を迎えます。防災訓練を続けていくことにより、子供達からお年寄りまであらゆる人々の親交を深め、地域住民の連帯感を築きあげております。

東日本大震災の教訓を風化させず、備えを十分にしていかななくてはなりません。

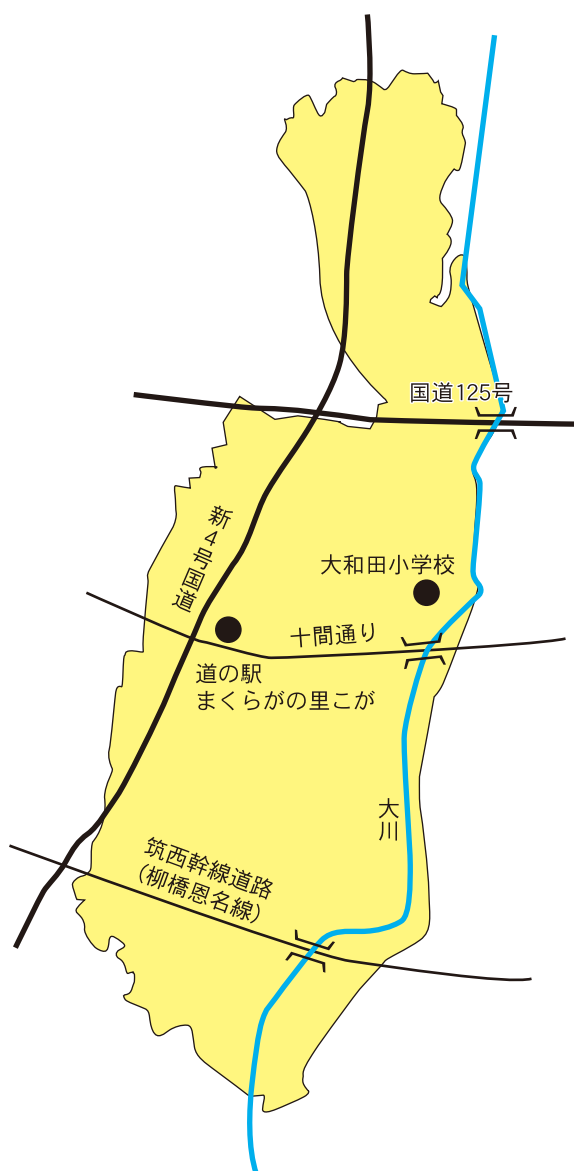
コミュニティ活動を通し、防災意識の向上に努め、地域の人々の絆を強固なものにしていきたいと考えています。

今後の課題として、道の駅「まくらがの里こが」との連携を図り、第17地区を発信基地とし、イベント等を協力して行い、古河市はもとより茨城県全域、そして全国に、ふれあいの輪を広げていきたいと思っております。これからも、関係諸団体の皆様との連携を密にし、よりよい町づくり、地域づくりを推進してまいります。

以上で第17地区の紹介と致します。

（第17地区 地区長 関根正一）

### 第十七地区 区域



## 市内歴史散歩（第9回）～ 古河の近代化を推進した製糸業 ～

今年の6月、群馬県富岡市の富岡製糸場が世界文化遺産に登録され、大きな話題になりました。富岡製糸場は明治5年（1872）、近代産業育成のため、フランス人技術者を招き創業しました。明治政府の国策による官営工場です。その後、民間に払い下げられ、昭和14年に片倉製糸に合併されました。昭和62年に操業を停止しましたが、以後工場の保存に努め現在に至っています。

一方、古河市でも明治から昭和にかけて製糸業が近代古河を形成する原動力となりました。その変遷をご紹介します。

明治4年の廃藩置県により禄を離れた士族を救済するため、全国的に士族授産事業が図られました。古河では明治13年（1880）、旧士族242名が出資して同志社を設立、町内の高橋菊次郎夫妻の指導により製糸業が操業されました。高橋は足利市の出身で、没後、古河町の製糸業者により顕彰碑が雀神社に建立されています。

明治20年代には民間業者が次第に現れるなかで同志社は明治32年（1899）、座繰製糸から器械製糸に転換するなかで役員の見解が対立し解散しました。

明治30年代になると民間のなかでも小島倉吉による小島館は器械製糸のほか火力発電やガス灯なども導入し、大正期には6か所の工場と千人余の工員を擁して「関東の製糸王」と呼ばれました。しかし創業者の死去とその後の社会経済状況により大正12年（1923）閉鎖しました。

それに代わり古河の2大製糸場となったのが、飯島・須藤製糸でしたが、太平洋戦争の勃発により、多くの製糸業者は半官半民の「日本蚕糸製造株式会社」に統合されました。このなかで、飯島製糸の飯島雷輔は国の統制に従わず、

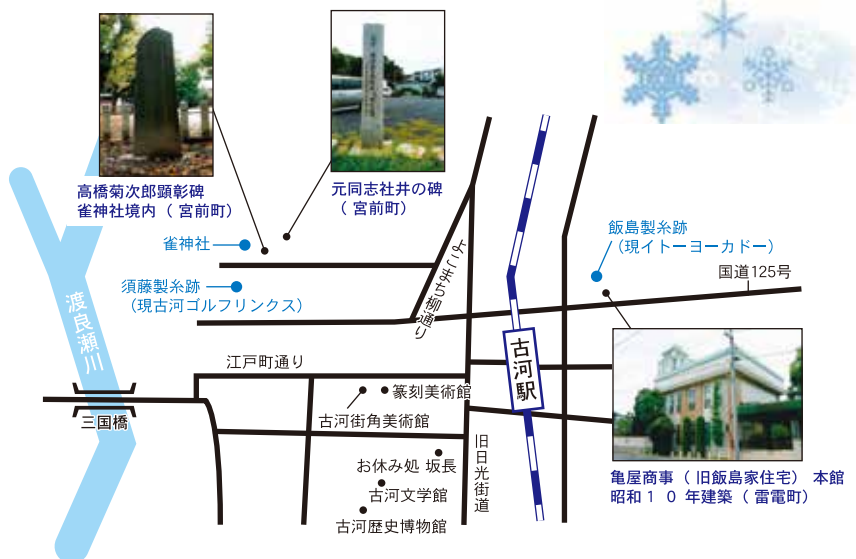
全国の製糸業者約30社を募り、「共栄蚕糸組合」を設立し、理事長となります。戦争末期には、古河の製糸業も廃業に追い込まれるところもあり、器械製糸は一時期、飯島・須藤・丸木製糸の三社となりました。

戦後の製糸業は化学繊維の発達にともない下降線をたどり昭和33年、飯島製糸が閉鎖されました。それでも須藤製糸が自動繰糸機を導入し、昭和54年の統計によれば、須藤製糸ほか11社で63億円余の出荷額があり、古河地区地場産業に大きく貢献しています。

平成17年（2005）、全国器械製糸の最後の工場であった須藤製糸松原工場が閉鎖され、古河はもとより国産器械製糸の歴史は閉じました。

こうして明治維新後一時停滞した古河町は、製糸業を基盤にボイラーなどの関連事業や商業活動を活性化させ、明治末年には「古河実業協会」を組織し、大正末年には、水戸について古河が石岡・土浦と2、3番を競うまでになったのも、地元製糸業の功績といえます。（文中敬称略）

\*参考文献 永島盛次「生糸のまち古河」2014年（三神町自治会長 鷲尾政市）



### 編集後記

地域づくり活動支援事業補助による、敬老対象者と地域住民が一堂に会して交流する「功労感謝の会」が各地区にて盛大に実施されました。世界一長寿国日本、女性86.6才、男性80.3才、人口の20%が高齢者です。古河市では、人口145,319人（8月現在）で、高齢者（65才以上）は34,786人で、男性15,802人（21.6%）女性18,984人（26.3%）です。長生きすればよいというだけでなく、健康で長寿でなければなりません。

健康の三要素・・・ 1運動 2栄養 3社会参加

高齢者の皆さん地域の行事に積極的に参加され、健康長寿を楽しんで下さい。  
（広報委員長 伊藤利彦）

### 行政自治会広報委員会

委員長

伊藤利彦

委員

横山泰男 生方隆雄 鈴木國雄

廣田壽男 荻谷武士 知久文雄

梅津信男 荒川篤志 黒木ヒサ子